

J R 芦屋 駅 南 地 区

まちづくり協議会 NEWS



第 15 号

平成 27 年 9 月

[発行] JR 芦屋 駅 南 地 区 まちづくり 協 議 会



まちづくりのコンセプトについて話し合っています！

これまで、計画検討会では、駅前の交通機能などをはじめ、様々な視点で意見交換をしながら、まちづくりについて考えてきました。

第 20 回からは、「まちづくりや導入機能のイメージ」をテーマとして意見を交わしてきており、参加者からの意見をまとめた結果、「住宅や商業等の機能だけでなく、まちの玄関としての発信機能や、めざすべきまちづくりの目標・効果を意識することが重要ではないか」と方向付けを行いました。

8 月 22 日（土）に開催した第 23 回計画検討会では、これまでの意見集約（次頁の図）をもとに、まちづくりのコンセプトについて確認するとともに、「住宅機能」について意見交換を行いました。

今後は、今回確認したまちづくりのコンセプトに加え、交通機能やすでにとりまとめた「まちづくり方針（案）」も踏まえ、検討を進めていきます。



第 23 回計画検討会の様子

次回からは、「具体的なイメージ案」をもとにした検討を行っていきます。

これまでの計画検討会では、商業・公益・住宅・交通の各機能について意見交換を行ってきました。まちづくりのコンセプトをまとめるための意見交換はひと通り行ったと考えられるので、次回（第 24 回）計画検討会では、「具体的なイメージ案（たたき台）」を提案するように、協議会から市に求めました。

市としての作業があるため、次回の開催日程については、決まり次第お伝えします。



まちづくりのコンセプトについて

第20回以降で検討してきた、「交通機能」以外にまちづくりで求められる機能の意見を集約したものを以下に示します。

参加者からは、住宅や商業機能以外にも、「まちづくりのめざすべき目標・効果」、「まちの発信機能」といった点も重要であるといった意見が出されました。

■まちづくりのめざすべき目標・効果をもつ

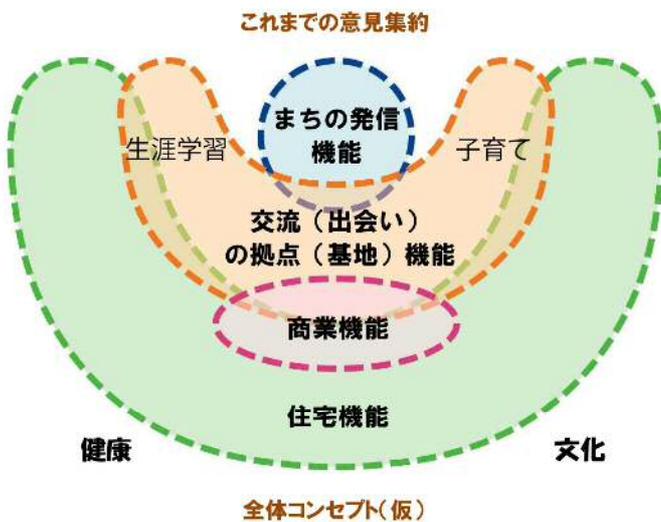
<参加者の意見>

- 日常的に阪神間から人が集まるというテーマを考えれば、芦屋らしい「開発の肝」ができる
- JR芦屋駅の乗降客数が倍になれば成功：一方、観光地でないので住宅地とのバランスが重要
- 健康をテーマにエルダーの方が集まる場や世代交流など特徴を明確に
- 市民の活力創出の場（世代の交流と文化発信から元気みなぎるまち）

■まちの玄関・交流・案内から発信機能をもつ

<参加者の意見>

- 芦屋は阪神間の中央、阪神間モダニズムなどの発信が特徴に
- 芦屋の「文化」と、自然を活かした「健康」を発信
- 芦屋は文化レベルが高い（人・活動・生活）ので、その文化度をPR
- 「業平」などの歴史性も活かすべき
- バーチャルな空間と現実が一致するような拠点
- IT技術を駆使した情報発信機能



芦屋を発信するまちから

<参加者からの主な意見>

○住宅機能に関わる内容

- ・第22回計画検討会後に見学したパークコート芦屋（上宮川町）は、エントランスが豪華だった。部屋についても窓が大きく開放感があると感じた。
- ・雨に濡れずに行き来できるなど「駅前」をしっかりと活かすことが一番の強み。
- ・外観は、白くて冷たい感じではなく、しっとりしたデザインがいい。
- ・商店と公益施設との関連もうまくマッチングできるのかどうか。
- ・住宅は、エントランスにはロビー、管理人室が必要で、管理人は日勤でいいのでいて欲しい。
- ・管理費が高くなるようなしつらえは、後々に所有者（管理組合など）の負担になるのではないか。
- ・集合住宅の場合、ペットについてのトラブルが多い。住まい方に関するルールについてもしっかりと決めておく必要がある。
- ・防犯カメラや奥行きのあるバルコニーも付けて欲しい。

等

<参加者からの主な意見>

○計画全体に関わる内容

- 導入する公益施設の内容について、計画検討会の場だけでなく、市民等に意見を聞かないのか。
- (市)：まずは地元の方の意見を大事にしたい。その後、市民から広く意見を伺うパブリックコメントも検討している。
- 公益施設ができることが大事。何を盛り込むかは時代によってニーズも変わってくる。最初から決めつけないほうがいいと思う。今の段階では、子育て、生涯学習ぐらいがイメージとしてあるというぐらいでいいのではないか。
- 芦屋らしいかたちになるように、デザインや一体感を持たせる工夫が重要になる。
- 縮小社会に入っていることを考慮すべき。管理費を抑える工夫などの視点も重要。
- 現行の駅前広場都市計画決定区域を解除することが、まちの付加価値をつけるために良いのではないか。
- (上段の意見について) 駅前が乱開発されるおそれがあるため、まちとして望ましい姿ではないと思う。
- 事業区域を先に決めて欲しい。実際に自分のところが区域に入るのかもわからない。また何年後までに決めるのか。それによって考え方も変わってくる。
- (コンサルタント)：これまで、かなりの議論をしてきた。色んな面で芦屋を発信できるような機能や形態を踏まえながら、夢のある住宅を考えたい。市は、次回ぐらいにはまちのかたちの案も用意できるように段取りをしていかないといけない。
- (市)：今回は、市ができていること、できていないことをきっちりまとめて、今回意見交換した「住宅」だけでなく、「交通」、「商業」、「公益」の計4項目をまとめた市の考えを皆さんに提案させていただきたい。
- 市の計画案を楽しみにしておく。採算性もあるので、ある程度、住宅の戸数を確保するために、建物を高くする必要があるかもしれないが、あまり高層の建物にすることには反対。
- (コンサルタント)：ここでの議論を踏まえながら一步一步具体的な計画に近づけていく。様々な条件を押さえながら、かつ関係者と調整しながら詰めていくというプロセスになる。これまで、公共施設、商業、住宅を踏まえて、駅前という特徴を活かしながらコンセプトを持つということを進めてきた。また、「まちの玄関・交流・案内から発信機能をもつ」、「まちづくりのめざすべき目標・効果をもつ」という方向づけもしてきた。今回、住宅についても様々な意見が出たので、それらを補足しながら、「芦屋を発信するまち」ということでまとめていきたい。今回は、市からまちの構成が分かるような資料を用意し、議論できるようにしていきたい。

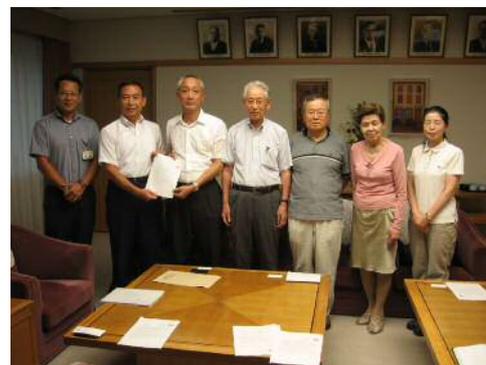


まちづくりの早期事業化についての要望等を行いました！

8月25日（火）、協議会の役員が市役所を訪ね、山中健市長及び佐藤徳治副市長、畑中俊彦市議会議長に対してまちづくりの早期事業化についての要望書及び申入書を提出しました。

山中市長からは、「今は事業が確実に前を向いている。どこにでもあるような再開発ではいけない。市としては、夢のあるものを皆さんの思いを大切にしながらつくっていきたい。」というお話がありました。

畑中市議会議長からも、「JR芦屋駅南地区のまちづくりは、市の財政状況から一旦中止となったが、市の起債額も減ったことで、取り組める状況となり、今に至っている。ぜひ、皆様のご協力のもと、地域のため、本市のためにも進めていっていただきたい。」というメッセージをいただきました。



市長、副市長への要望書提出（上）
市議会議長への申入書提出（下）



お知らせ

「あしや防災ネット」のご案内（芦屋市からのお知らせ）

皆さんの携帯電話やパソコンに防災情報をメールで迅速・確実に配信する「あしや防災ネット」というサービスを実施しています。これからの台風シーズンに備え、ぜひご活用ください。登録のためには、「ashiya@bosai.net」宛てに空メールを送信後、届く返信メールにしたがって手続きを進めてください。

【「あしや防災ネット」の問合せ先：防災安全課（0797-38-2093）】



上記のQRコードからでも登録いただくことができます。

■お問い合わせ先

JR芦屋駅南地区まちづくり協議会
(事務局)〒659-8501 芦屋市精道町7-6
芦屋市都市建設部都市整備課
☎ 0797-38-2074
FAX 0797-38-7974
HP:<http://www.city.ashiya.lg.jp/gairo/jrashiyasouth.html>

JR芦屋駅南地区のまちづくり
についてご紹介しています！

JR芦屋駅南地区

検索